

しづおか 県民児協だより



29

第29号
平成27年2月1日発行

[題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書]

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ☎054-251-7508

川根本町民生委員児童委員協議会の活動 「地域のつながりで安全・安心を」



川根本町の六十五歳以上の高齢者人口は四四%を越え、県内トップとなっていますが、「年を取つても元気に自分らしく暮らしていく町」を目指し、町が一丸となつて様々な取り組みをしています。民生委員児童委員協議会もその一翼を担い、地道な活動を重ねてきました。今年は「高齢者お達者度で女性が県下第1位、男性が第3位」に輝き、大きな励みとなりました。

今年度の活動として、災害時にもみんなが元気でいられるよう「見守り」や「災害時要援護者に係わる支援の現状」のアンケートを実施しました。その結果、多くの課題が明らかになり、今後、課題解決に向けて試行錯誤ではありますが、進んでい

こうと思います。
また、十一月に開催された「産業文化祭」や「奥大井ふるさと祭り」では、民児協として、赤い羽根共同募金協力の呼びかけをしました。大勢の方々に募金していただき、「甘酒」等を振る舞いました。その時は、就労継続支援B型事業所の方による陶芸品や手芸品の作品を販売したり、いきいきサロンの参加者達と「お達者体操」を踊り、地域の人たちとふれあいながら、祭りを盛り上げ、有意義な時間を過ごすことができました。

その他、年間交流事業として、通所者と一緒に作業をしたり、子どもたちと一緒にスポーツを楽しんだりして和気あいあいの中で活動しています。

このような活動を通して感じるのは、「人と人との温かな交流が活力をもたらす」ということです。川根本町は、社会資源が多い町ではありませんが、だからこそ地域に足を運び、声をかける活動を大切にしていきたいと思います。



平成26年度(第83回)全国民生委員児童委員大会報告

次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、
御報告いたします。



大會宣言

今日、多様な生活課題を抱え、支援を必要とする人々が増加しています。経済的困窮や社会的孤立の状態にある人びとの支援、高齢者・障がい者・児童への虐待や消費者被害の防止などは社会全体で取り組むべき課題となっています。また、子どもたちを狙った犯罪被害は後をたたず、認知症高齢者が行方不明となる事例も増加しています。さらに、東日本大震災以降も台風や豪雨被害などが相次いでおり、要援護者の支援体制づくりも急がれます。

来年は生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て支援制度の施行、介護保険制度の改正などが予定されています。

これらの制度がめざすものは、住民同士が支えあい、助けあうなかで安心して生活を送ることができる地域づくりであると考えます。そうしたなかにあって、常に住民の立場に立って活動する民生委員・児童委員に寄せられる期待は一層大きなものとなっています。

民生委員制度は三年後に創設100周年を迎えます。私たちはこの大きな節目を前に、昨年の一斉改選により新たに加わった仲間とともに、誰もが安心して住み続けることができる地域づくりに向け、さらなる取り組みをすすめていかなければなりません。

本日、ここ和歌山県において第83回全国民生委員児童委員大会を開催するにあたり、私たちは強い決意のもと、次のとおり宣言します。

一、支援を必要とするあらゆる人びとが孤立することのないよう、日々の見守りや相談活動に取り組み、早期に必要な支援につなぎます

一、住民の多様な生活課題に対応するため、地域の幅広い関係者との連携をとともに、住民同士のつながりを強め、支えあい、助けあうことができるまちづくりをすすめます

一、虐待やいじめ、犯罪被害、貧困の連鎖などから子どもたちを守り、その健やかな成長を支えるための「わがまちならでは」の取り組みをすすめます

一、東日本大震災をはじめとする被災地の人びとやそこで活動する民生委員・児童委員への支援とともに、災害に備えるための地域での取り組みをすすめます。

一、基本的人権についての理解を深めるとともに、個人情報の取り扱いなどに常に留意し、住民や関係機関・団体との信頼関係に基づく活動をすすめます

一、民生委員・児童委員がその力を発揮できるよう、活動しやすい環境づくりのため、市区町村、都道府県・指定都市、全国の各段階における取り組みを一層すすめます

大会報告

平成26年度全国民生委員児童委員大会

活動交流集会発表要旨



- オープニング
- 式典
- 全国民生委員児童委員連合会
- 会長表彰
- 特別講義（シンガーソングラ
- イター・立木早絵氏「さらなる一步を踏み出そう！」
- 大会宣言
- アトラクション（マリンバ
- エミール＆和歌山県民生委員児童委員協議会コーラス団）
- 他

平成26年10月23日(木)～24日
(金) 和歌山ビッグホールに約3,000人(本県31人)を超える民生委員児童委員が集まり、平成26年度(第83回)全国民生委員児童委員大会が開催されました。



二日目「活動交流集会」
会場…和歌山ビッグホール他
杉本 正 牧之原市民民生委員児童委員協議会会长が、活動交流集会10の事例発表者として登壇されました。

〈発表テーマ〉

活動交流集会10「民生委員・児童委員活動を支える民児協機能の強化のために定例会や委員研修の充実等の取り組みの強化」

〈発表要旨〉

地域福祉推進の取り組み、連携とコミュニケーションとし



て、中高生と福祉観の共有を目的とした、ワークショップ「身近な福祉について語ろう」の実施。

〈取り組み〉

- 牧之原市民民生委員児童委員協議会会長が、活動交流集会10の事例発表者として登壇されました。
- 現場を知る
- ②私たち、私を知つてもらう
- ③仲間づくり
- 4つの取り組みのポイント
- 定例会
- ・委員同士の情報交換
- ・委員に対する関係機関による助言支援(相談)
- ①ナーナー
- ②ふれあい
- ・ボランティア活動を通じた要支援者とのふれあい
- ・民児協活動のPR
- ③仲間づくり・若者との交流による世代を越えた福祉観の共有
- ・地域の中に要援護者支援の仲間づくり
- ④事務局
- ・福祉施設や行政機関との連携と円滑な民児協の運営



ボランティア全員の写真

大洲地区社会福祉協議会自立支援部の事業活動報告

藤枝市民生委員児童委員協議会（大洲地区）

藤枝市の南部に位置する大洲

地区社協では『支えあう 心と
絆で まちづくり』をスローガンに、自立支援【手助け支援、ふれあい会食会、ジユニア福祉交流会、地域ふれあいサロン】と子育て支援の事業活動を行っています。ここでは、市内でも関心を寄せられている手助け支援について活動報告をいたします。

連絡先：藤枝市立大洲公民館内

大洲地区社協事務局

代表者：地区社協会長

事業概要

〔活動地域・手助け支援対象者〕

高齢者世帯で普段日常生活を行っている方にも、一人ではなく

かなかできない軽作業的なこと

があります。このような作業を

支援するために藤枝市大洲地区在住の高齢者世帯の方々を対象

に「手助けボランティア」を提供しています。

〔支援の内容〕

①可燃物や不燃物の処理
②荷物の荷造りや発送

③古紙・新聞紙等の整理整頓
④住まいの整理や片付け

⑤庭木の簡単な枝おろし等の手入れや除草

⑥電気製品の簡単な修理・照明器具の取り替え

⑦日曜大工程度の補修作業等

⑧その他（要相談）

〔利用料〕

登録料…200円（初回のみ）

利用料…30分まで100円

（例 最大一回2時間で400円）

材料費等は実費をいただきます。

〔申込み〕

地区担当の民生委員・児童委員を通してお申込みを受付けています。

地区担当の民生委員・児童委員を通してお申込みを受付けています。

活動を始めた経緯

運営方法

平成15年代、日本社会全体で少子高齢化、核家族化が進み、将来の問題として大きく呼ばれはじめ、お互いに地域社会として出来ることは何かと取り組んだことが、手助け支援です。地域のなかで自立して暮らしていくように、近隣で支援体制を作り、互いに助け合い・励まし合い、安心して生活できる住みよい町づくりを目指すために、先進地の活動を視察し、どんな支援が必要か検討を重ねました。そして平成15年度に手助け支援活動が始まりました。その後も、利用者の皆様にも喜ばれ感謝されることを願い、試行錯誤を繰り返しながら、内容の改善を図つて、現在のような活動になりました。

〔受付〕
随時

〔活動場所〕

藤枝市大洲地区在住者宅

〔人員体制〕

ボランティア9名と民生委員9名で連絡を取り合って実施

〔運営経費〕

登録料、利用料、地区社協運営費など

※チラシを作成する等、運営のために活用しています。

〔効果〕

ボランティア活動によって利用者とのコミュニケーションがとれるので良い人間関係が構築できています。

今後の課題

年々高齢者世帯は急激に増加して、奉仕活動をしていただくボランティアの人びとの高齢化が進み、引退される方が増え、その補充に苦慮していますので「公民館だより」「社協だより」に活動状況を掲載し、「町内会」「長寿会」を通してPR活動を行つて募集に努めていますが、なかなか思うようにいきません。

③住まいの整理や片付け

138回

5回

②植木の手入れや草刈り

84回

49回

活動の実績・効果 平成25年度の活動状況

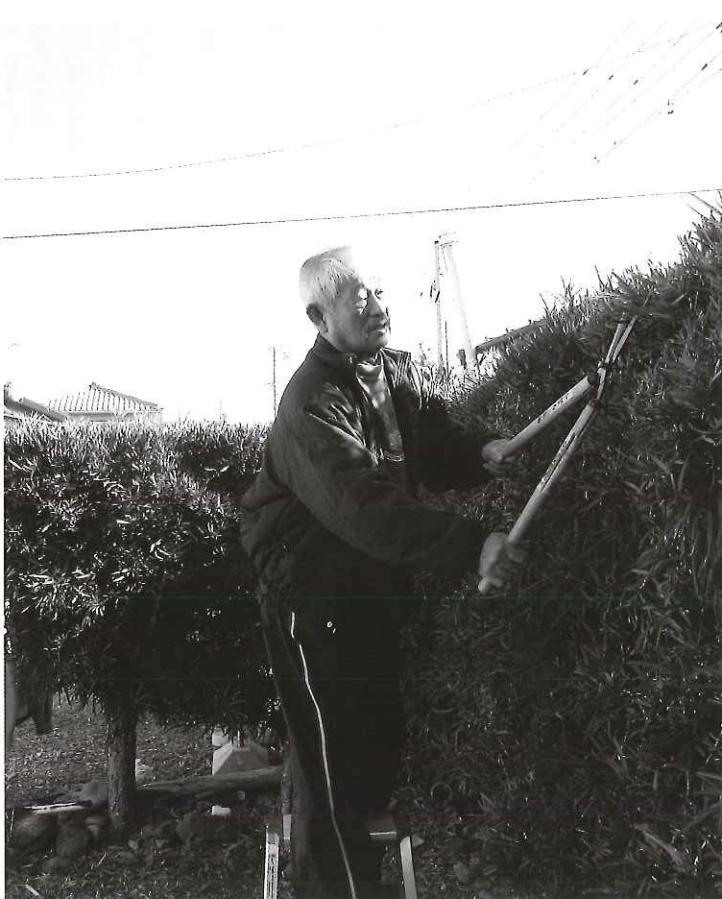
①可燃物、不燃物の処理

合計

138回

5回

49回



ボランティア作業中の写真



ひろば

どうせやるなら楽しくやろう



東伊豆町
民生委員児童委員協議会

鈴木 重徳

3年に一度の一斉改選を終え、新たな任期がスタートし、東伊豆町民児協では半数を超える多くの委員が退任しました。

1年目は民生児童委員制度についての基本的なことから始まりますが、実際には常に住民の立場に立って相談に応じ、また必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めることを実践として活動しなければなりません。

定例会では、それぞれの活動の中で、個人の努力や判断だけでは対応が難しい問題や「なぜこんな事をするの」といった、疑問をお互いに発表し、協力し合つて問題の解決を図るよう努力しています。「社会奉仕の精神」という基本原理は、一貫として変わらず守られ、発展してきたと思います。

近年特に感じることは、民生児童委員としてどこまで行動するのか、どこまで立ち入ることができなのか、私たちが関わる問題が非常に複雑化、多様化してきており、容易に解決することができず時間がかりが過ぎていくことです。活動一つをとっても、人それぞれ考え方も、取り組み方も違う難しい仕事です。今やっていることは小さなことですが、それを続けていくことが大事だと考えています。

「どうせやるなら楽しくやろう」「元気一番」頑張りましょう。



函南町
民生委員児童委員協議会

高橋 敏行

函南町民生委員児童委員協議会は、昨年の委員一斉改選で定数75名（民生児童委員72名、主任児童委員3名）の中、民生児童委員38名、主任児童委員3名（計41名）が新任の委員です、全体を四部会に分け活動しています。定例会での取組みを話しますと、この一年は、新任の委員研修を兼ね今年の事業計画の中に、研修を多く取り入れ、みんなで「参加して学び、仲間と学ぶ」ことを呼びかけ、いろいろな行事や研修に委員の出席を促しています。

毎月一回の定例会は、机を円形に配置し担当地区名と氏名の名札を置き全委員の顔と名前がわかるよう当番の部会が会場を準備をし、専門部会の中だけでなく全委員のコミュニケーションが取れるように配慮しています、席は時計回りに毎月移動します。

定例会では、全体会議を行い議事の中に全体研修として講師を招いて、30～40分の時間を省き、事例発表等を行い質疑応答が交わされますが、時間的制約もあり、不足分は必要に応じて各部会でスキルアップ研修を行っています。又、日頃の活動の中では役立てればと考え、ほぼ全員の委員が普通救命講習Ⅱを受講し普通救命講習終了証を取得しています。

立ちはだかり振り返る余裕も無く、川の流れの様に蛇行しながらの一年でした。

福祉サービスに対する地域住民のニーズは年々増長している中、地域の情報収集と知識の向上に努め多様な相談や問題に直面した時、問題を抱え込まず、悩まず、的確に行政や関係機関につなげ、地域住民が安全で安心して住み続けられる様、地域社会作りに努めていきたいと思います。

この一年がすぎて

定例会は仲間と学びあう場に



焼津市
民生委員児童委員協議会

松村 正志

最近、ある新任の民生委員から次のような相談を受けた。

「小学生の登下校時の見守り活動は民生委員の仕事なんでしょうか？前任の方はやっていたので、自分もやった方がいいかなと思い現在やっています。また、最近隣の地域でやっていた方が体調を壊してできなくなっていますが、そこも私がやった方が良いのでしょうか？」

先日開かれた、全国民生委員児童委員大会の分科会の中で、高崎健康福祉大学の金井教授は「個別支援活動、民児協活動、地域の福祉活動等の中で期待される役割が広がり、民生委員活動の中に負担感がある」とも指摘された。「私は、先ほどの新任委員には「児童の見守り活動は、民生委員だからやらなくてはいけないものではないよ、でも小学生を交通事故等から守つてあげる事も民生委員活動の大切な活動だから、できるだけ協力してやってください」と答えた。

私は昨年地区会長に就任した時「地区定例会は出来るだけ勉強する場を作つて行きたい」と言つたけれど、日先の課題の消化に一杯で実行出来ていません。定例会は「仲間と学びあう場」となるよう心していきたい。

ひろば

要援護者避難行動検討会

災害時要援護者支援に向けて

地域の関わりの中



吉田町
民生委員児童委員協議会
中山 孝康



菊川市
民生委員児童委員協議会
伊藤 順治



御前崎市御前崎地区
民生委員児童委員協議会
横山 幸子

吉田町民児協では本年二月に七名の委員を選び、役場社会福祉課幹部職員一名をアドバイザーとして迎え「要援護者避難行動検討会」を立ち上げました。毎月第一金曜日に集まり計九回の検討会を重ねて、十一月の定例民児協においてその中間報告を行いました。

最初に「ワーケシヨップ」を活用して、どんな事柄を討議するかを出し合い「情報」「避難所」「民生児童委員」の三つに絞りこみました。

しかし大きく分厚い壁であつたのが個人情報の共有化でした。国の災害対策基本法の改正により名簿の情報提供が可能になるものの、それには一定の制約がついており簡単にはいきませんでした。

六月開催の吉田町個人情報審査会において、守秘義務を尊重し厳重管理を条件に、その名簿が民生児童委員にも提供されることが可能になり、中間報告の席上担当地区の名簿が各委員に渡されました。

今後は隣組を中心として自主防災会等と協力して一人でも多くの要援護者に手をあげ登録してもらうことが重要です。又、行政、自主防災会、社会福祉協議会、民児協等の関係団体が協議を重ねる必要があります。

吉田町では十五基の津波避難タワーが完成しました。ハード、ソフト両面とも自然災害に強い町になることを願っています。

一年目以降も社会福祉協議会の協力も得て検討していくつもりです。

平成二十一年、自治会で公募により、自主防要援護者支援班の組織化を進め、十一月の防災訓練では要援護者本人（身体障がい者）の避難訓練を実施した。訓練後、要援護者が八月発生した駿河湾沖地震の時、支援の声もなく、「大変不安な日々」を過ごしていたが、今回の訓練で「不安が安心に変わった」と安堵の声を聞くことができた。

自治会在住の災害弱者対応をどうしたらよいか思案している矢先に、東日本大震災が発生、高齢者・障がい者の被災が著しく多いことを知った。六月、岩手県山田町へボランティア参加した時、津波により、特養の壊滅的な惨状を目撃した。

近隣の特養も、施設従事者だけでの対応は困難が想定される。なお、この特養は菊川市と福祉避難所の協定をしていることから、避難者の対処は、更に人的難しさが想定できる。そこで、地区住民の理解を得、福祉避難所開設までの期間、「地区の方々による特養支援と要援護者の受け入れ」を相互に援助する協定を平成二十五年三月締結、その支援をしてきた。

また居住自治会は一九班二七〇世帯、要援護者も増加し、班毎に支援員一名以上を目標とし、昨年まで一七班に選任した。今年の訓練までには一〇〇%達成、合わせて要援護者の支援活動要領を作成、「自治会内要援護者の安全・安心」を継続的に進めていきたい。

私は精神障害を持つ息子がいます。この病気には世間の偏見が根強くあるため、私達家族も地域でひとつそりと生きて行こうと思つていました。

しかし、人は一人では生きて行けません。家族、友人、親戚、地域の皆さんなど多くの人の支えで社会と繋がり人並みの暮らしが成り立つと思うようになりました。

そんな私に民生委員のお話がありました。自分の事や息子の事で精一杯でしたが、町内会長さん達の熱意に断り切れず、お引き受けして一年が過ぎようとしています。

面識の無い方からの要望や相談により知つてしまふ個人情報にとまどいながら、この地域にこんなにも多くの問題があり、困つている人たちがたくさんいることに驚きました。それと同時に民生委員がこれほど必要とされていることを、身を持って知りました。

まだまだ要領が掴めず、体がいくつあつても足りないくらいですが、先輩委員の皆さんに温かくご指導、ご協力いただきながら、この大好きな御前崎が少しでも住み良い街になるよう微力ではありますが、頑張って行きました。

平成26年度叙勲・大会等表彰者の紹介

(敬称略)

●叙勲

瑞宝単光章

升平佐登志（伊東市）

●厚生労働大臣表彰

遠藤 勝雄（熱海市）
中嶋かつ江（沼津市）
三宅 幸三（富士市）
望月 衛（富士市）
望月 愛子（富士宮市）

●静岡県知事表彰

宮川紀代美（三島市）
加藤 公子（沼津市）
駿藤 春代（沼津市）
田村 輝美（沼津市）

●全国民生委員児童委員

連合会会長表彰

優良民生委員児童委員協議会

西伊豆町

民生委員児童委員協議会

庄司美智子（沼津市）
田村恵美子（富士市）

松本 玲子（富士市）

高森 孝子（島田市）

鶴田 久子（掛川市）

鈴木 通保（清水町）

尾坂 汎恵（島田市）

鶴田 久子（掛川市）

●全国社会福祉協議会表彰

民生委員児童委員功労

丸茂 勝（伊東市）
高森 孝子（島田市）

小松 勇（湖西市）

栗田 洋子（富士市）
安井 妙子（三島市）
桐澤 勇（沼津市）
長渡 泰子（熱海市）
袴田 豊昭（掛川市）

編集後記

改選から1年余り、新しい組織での活動も地について来た事でしょう。近年は、異常気象か、自然災害が多く発生し、私たちの日常生活面に於いても、心配される不安材料があり、大変な思いがします。

過日は、和歌山県にて、全国大会が開催され、大会を通して、民生委員児童委員が、勇気と誇りを持ち、優しさの心で、その力が大いに發揮される事が、目指す委員活動であり、社会に大きく貢献出来るものと新たに認識されています。

各委員の皆さんからの、活動や関係する貴い投稿を戴き、誌面が充実されて行く事は、委員の一人としても喜びです。

これからも、ますます、多方面において、活動にも、その重大さが増して来ることでしょうが、委員同士の協力と連携で、活動が継続されて行ければ幸いです。